

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北陸)		-	-	-
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	お客様の様子	・このところ客の買い控えが大分改善されているようである。
		コンビニ（店舗管理）	単価の動き	・6月に米飯類の値上げを断行した。客単価は大きく上がり、前年売上をおおむね超えている。また、お盆期間の売上も好調である。
		衣料品専門店（店舗運営）	来客数の動き	・例年になく大規模セールにより、来客数は増加している。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・ショールームのリニューアルや出張展示会、各種イベントへの参加などで、来客数は増えている。
		高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・お盆期間の日並びが良く、11～19日に例年以上の集客があった。特にランチタイムには3世代家族の10名前後の利用があり、単価も高く前年比110%ほどの売上となっている。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・前月と変わらない猛暑や、月末には激しい雨など天候に左右される状態が続く。当店においては相変わらず低空飛行であったが、前月よりも15%回復といった状態である。
		タクシー運転手	来客数の動き	・今月も暑い日が続く、猛暑も連続で記録していることから、昼間を中心に涼しいタクシーを利用する客が多い。外出を避ける傾向にあるが、どうしても外出しなければならない場合はタクシーを使う。また、夜も涼を求めるサラリーマンが多くみられる。
		タクシー運転手	来客数の動き	・夜の繁華街を除いて、早朝から午前中、日中に夕方と結構忙しい日が続いている。
		通信会社（営業担当）	来客数の動き	・販売量自体はまだ伸びていないが、来客数が戻ってきている。
		通信会社（役員）	お客様の様子	・夏休みシーズンで例年苦戦する月ではあるが、今月上旬にはテレビ、通信共に契約数が順調に推移し、お盆休み明けの下旬には加入検討の問合せが増加している。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・商品売上はまずまずであるが、今夏の異常な暑さによって特に高齢者の来店が減っている。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・消費税の引上げ予定によって、客の購買意欲が徐々に高まっていると感じられる。しかし、個人の所得や家計に余裕があるわけではないので、力強さはみられない。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・住宅用土地を探している客が活発に動いている。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・7月の盛夏衣料や飲料品の需要は一時的に上がったが、8月は異常気象的な暑さのため、来客数は少ないようにみられる。夏物衣料の需要は鈍く、秋物衣料への動きも鈍い。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・3か月前と同じくらい、やや微増で平行で動いている。
		一般小売店〔事務用品〕（店員）	来客数の動き	・今月は特に来客数が予想を下回っており、売上も比例して思わしくない状態である。
		百貨店（売場主任）	単価の動き	・富裕層を中心に絵画や高級輸入時計などの高額品は好調に推移しているが、猛暑で来客数が減少し、店全体の売上高は前年を若干割り込む見込みである。
		百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・猛暑や台風などの天候不順の影響により、外出を避ける傾向が顕著である。そのため、店の営業施策によって固定客の来店を促している。しかし、先行層の初秋物の関心は弱く、全体的な消費マインドの遅れは否めない。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・7月から続いている猛暑のため来客数が減少し、売上高が前年を下回る結果になっている。特に影響があったのは旧盆期間中であり、暑さのため煮物材料などの動きが低迷した。
	スーパー（総務担当）	販売量の動き	・猛暑により前年と比べて飲料や乾麺、つゆなどの販売量が増加する一方、パンやビスケットなどの菓子は減少している。全体として商品カテゴリーごとの増減はあるものの、お盆商戦は前年並みであり、景気の変動はみられない。	
	スーパー（店舗管理）	来客数の動き	・相場物の高騰により客単価は増加しているが、来客数と購買点数の変化はみられない。	

	スーパー（統括）	販売量の動き	・猛暑と相場高によって、生鮮品の販売量が伸び悩んでいる。
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・猛暑の影響で売上は微増しているが、根本的に来客数はしばらく前年割れが続いている。客単価が伸びていることで前年の売上をクリアしている状態であり、平年の気温に戻るとほぼ平年くらいの売上になるのではと考える。
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・来客数は大きく変わらない。
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・天候による購入変化はあるが、客の購買意欲やし好の変化はみられない。
	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・来客数は若干伸びているが、客単価が下がっている。
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・猛暑の中で来客数も減っているが、衣料品の売上もそれ以上に影響を受けている。
	家電量販店（店長）	単価の動き	・猛暑が続き過ぎたことで、エアコンなどの取付けの対応が遅くなっている。
	乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・暑い日がこれだけ続くと、週末のイベントを開催しても来場者数は大変少ない。販売は横ばい状態である。
	自動車備品販売店（役員）	お客様の様子	・集客面では変化はみられない。前月同様にスタッドレスタイヤの早期販売を促進しているが、例年以上に反応が悪い。特別なお買得感がないと響かない。今使用している物をできるだけ使いたいとの声も多い。
	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・残暑というより酷暑が続いているせいで、ビールや酒、焼酎といったアルコール類が精彩を欠いている。飲料水関係は、主力商品が早々と欠品したことから頭打ちである。
	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	来客数の動き	・来客数はほぼ前年並みの状況である。衣料品のトレンドは悪い状態が続いているが、シネマが好調なことによって来客数が増加し、飲食業なども比較的好調な状況であるため、全体として売上は前年並みになっている。
	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・客は、日常的に利用するものについてはやや買い控えをし、限定販売品など変わったものへの購買意欲は強い。販売している側からすると、大きく景気が良くなっている実感はない。
	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・夏休み期間中の来客数は、ほぼ例年並みに集客できている。
	観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・前年比で総売上100%、宿泊人数112%、宿泊単価92%である。前年はリニューアル工事のため未稼働だった施設が、今年度は稼働しており、低単価商品投入によって宿泊単価が下落している。
	都市型ホテル（役員）	販売量の動き	・7月は宿泊部門やレストラン部門、宴会部門のいずれも厳しい状況にあったが、8月に関しては持ち直している。9月以降の予約状況は例年と同様の傾向にあり、景気動向は変わらない。
	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・来客数の動きが前年並みに推移している。今年の夏は特に猛暑や局地的な豪雨などがあったが、全体としては当地域では前年と比較して天候が良かったせいもあり、まずまずの状態推移している。
	住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・4月以降の上昇局面がない。
	一般小売店〔鮮魚〕（役員）	販売量の動き	・台風や大雨、猛暑などいろいろな天候要因で消費者は出歩かなくなっており、消費が落ち込んでいるようである。観光客の1人当たり消費額も、北陸新幹線開業当初から比較すると大きく落ちている。
	百貨店（営業担当）	来客数の動き	・3月の市のコミュニティバス廃止とともに、来客数は1か月ごとに減少する傾向にある。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・猛暑に関連して商品の動きが良かったものの、徐々に気温が落ち着くにつれ販売量が落ちている。また、夏物商材に対して飽きもあり、在庫一掃価格での動きも良くない。
	乗用車販売店（経理担当）	販売量の動き	・8月の販売量は前年同月比約100%の見込みである。3か月前の販売量が前年同月比111%であったので、下向きである。
	住関連専門店（役員）	販売量の動き	・夏の異常気象によって、家電などの暑さ対策への消費が増加したことが影響していると考えられる。

	都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・宿泊売上は月末に追いついて前年並みに戻しているが、単価が前年より悪い。レストランは来客数が少なく、単価も悪い。豪雨や酷暑の影響かもしれないが、7月に続いて8月も悪い状態である。宴会件数も減少している。	
	旅行代理店(所長)	販売量の動き	・主要取引先の経費削減が徐々に影響し始めている。	
	その他レジャー施設[スポーツクラブ](総支配人)	来客数の動き	・夏の特別スクールが終了したが、前年割れの状況である。そこからの入会も少ない。	
	住宅販売会社(従業員)	販売量の動き	・暑さのせいかな商談がなかなか進まず、商談回数が増えたり延期になったりすることが多い。今月の販売額は前月の2割ダウンとなっている。	
	x	商店街(代表者)	来客数の動き	・夏の風物詩でもあったお中元は、もはや死語だろうか。デパートのお中元売場は閑散としており、年々縮小傾向で人出もまばらである。客もバーゲンセール慣れで、全く活気がみられない。
企業 動向 関連	-	-	-	
(北陸)	繊維工業(経営者)	受注量や販売量の動き	・衣料、非衣料を問わず受注状況が上向きである。	
	プラスチック製品製造業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・原料価格高騰は続いているが、受注は順調に推移している。	
	建設業(役員)	取引先の様子	・取引先からの受注動向では、細かい金額ながら修繕や改修のニーズが多く、人員の面でなかなかすぐに対応できない状況である。設備投資ニーズは依然としてあると判断しており、これまでの勢いほどではないものの、今しばらくはやや上向きと見込んでいる。	
	司法書士	取引先の様子	・不動産関係では建物新築や、そのための土地取得関連の依頼が多い。	
	化学工業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・受注量は余り増減なく推移している。	
	一般機械器具製造業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・欧州や米国、国内の受注が引き続き好調である。	
	精密機械器具製造業(役員)	取引先の様子	・販売先の小売店では、この夏の猛暑によって来客数が伸びない。多少個々の状況は異なるものの、全体的には落ち込んでいる店舗が多いようである。	
	通信業(営業)	受注量や販売量の動き	・夏季休暇の時期のため、受注量は前年同月並みである。	
	不動産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・同業者に話を聞くと、半数で動きがあるということである。法人客の問合せが少し出てくるようになった。	
	食料品製造業(経営企画)	受注量や販売量の動き	・全般的な受注量は堅調に推移しているが、原料価格を始めとしてコストアップが利益を圧迫している。	
	建設業(経営者)	受注量や販売量の動き	・例年ならば公共事業が本格的に発注される時期であるが、本格的な発注がない。	
	金融業(融資担当)	受注量や販売量の動き	・生コン出荷量が6~7月に前年比プラスで推移していたが、8月は前年比マイナスになる見込みである。	
	金融業(融資担当)	取引先の様子	・猛暑の影響が予想以上に大きく、客の外出控えなどにより飲食店や百貨店からは来客数減少の報告を受けている。観光客を対象とするサービス関連業者からも観光客減少による売上減少の報告がある。	
	税理士(所長)	競争相手の様子	・同業種の中でも、良いところと悪いところの差が広がってきているようである。特に人手不足に伴って、製造業や建設業では受注活動がなかなか活発にできない。受注してもこなさきれない場合は受注活動が難しく、人手不足が事業の縮小につながるものが心配である。逆に人がいるところは仕事が取れている。	
	x	-	-	
雇用 関連	-	-	-	
(北陸)	人材派遣会社(役員)	求職者数の動き	・依然として、有期雇用契約の求人に対する求職者の反応が少ない。	
	新聞社[求人広告](担当者)	雇用形態の様子	・8月の求人広告は低調で、状況としては7月と変わらない。求人形態としてはパートやアルバイトの広告比率が前年に続き高く、これはシーズンのものと考えられる。	

	職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7月の新規求人数は、全数において4,258人と前年同月比で13.6%の増加である。フルタイムでは16.1%、パートタイムでも10.3%の増加になっている。産業別にみると、建設業においては31.7%増、製造業で10.8%増になっている。運輸業においては10.1%増といった動きになっている。特に製造業においては、食料品が37.8%増、電子部品デバイスと電子回路は100%増、情報通信業は141.2%増になっている。ハードウェア製造関係については、115.6%増加している。また、建設業などで初めて求人を出す企業があり、人手不足が末端まで広がっている様子が見え始める。電子部品関係については、人数的にはそれほど大きな伸びではないが、新陳代謝の動きとして定着しているようである。
	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求人数は増加傾向にあるが、採用できていない求人先の危機感から、多めの求人とも考えられる。
	学校〔大学〕（就職担当）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 8月に入り求人票の出方は落ち着いている。しかし、前年同期より二次募集の案内が多くなっている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 求人広告1回の発行で、70件くらい掲載件数が減少している。
x	-	-	-